

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 21044

建築物名称	プラウド向ヶ丘遊園
建築主	野村不動産株式会社 住宅事業本部 事業推進三部長 山田 岳人
建築物の所在地	川崎市多摩区登戸2779-11
設計者氏名、建築士事務所名	渡邊 基弘 株式会社長谷工コーポレーション 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	13,864.36㎡
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上6階
工事完了年月	令和6年2月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency CASBEE川崎

■使用評価マニュアル: CASBEE-川崎2017年版

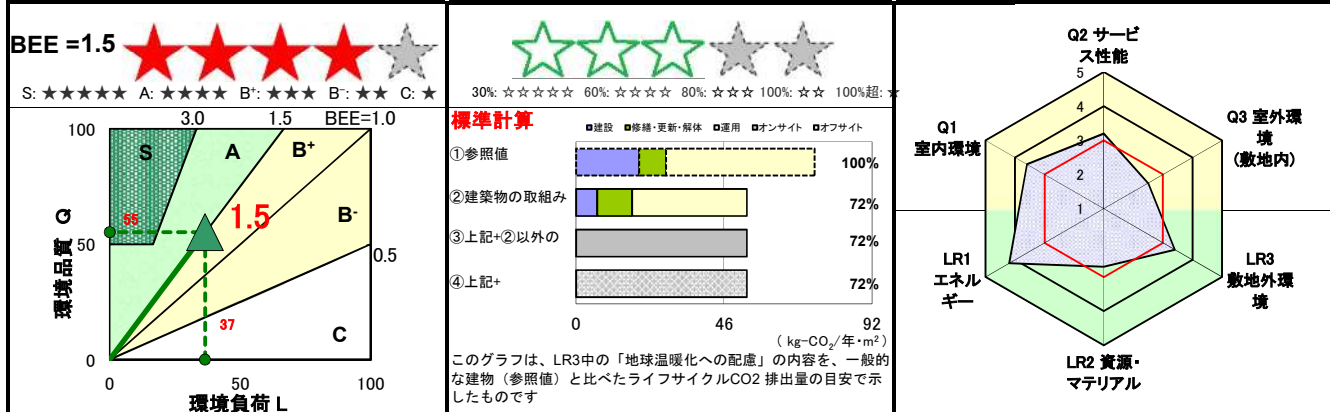
使用評価ソフト: CASBEE-川崎2017(v.3.1)

評価結果

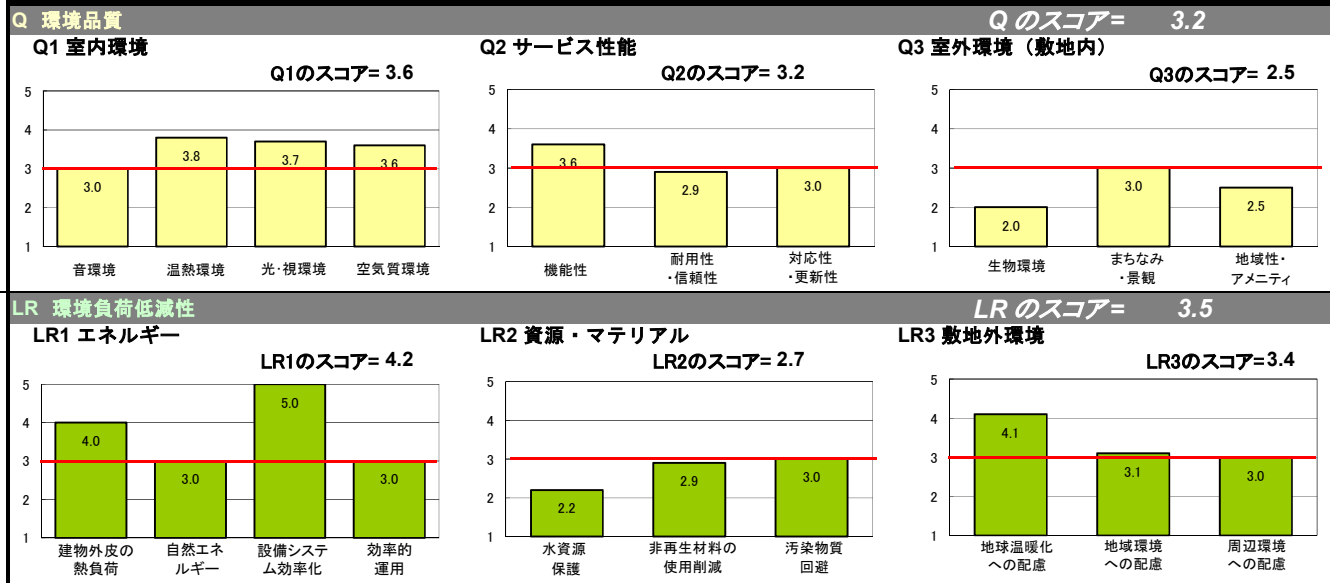
1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ブラウド向ヶ丘遊園	階数	地上6F
建設地	神奈川県川崎市多摩区登戸2779-11	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	504 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年2月 竣工	評価の実施日	2022年10月15日
敷地面積	5,577 m ²	作成者	木村恵大
建築面積	3,385 m ²	確認日	2022年10月16日
延床面積	13,864 m ²	確認者	島田祐樹

外観パース等
パースの公表を希望される場合は
図を貼り付けてください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート) 2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート) 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.8
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	景観に配慮した設計を形成	2.1/4.3	2.5
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.2
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 昼光利用設備 3.2 3.2.1 昼光制御	断熱等級4を確保 エントランス昼光率14.8 %を確保、G2タイプ昼光率2.70%を確保 庇を設置することでグレア対策をしている	5.3/6.8	3.9
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.9/2.3	2.0
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	住宅性能表示制度 省エネ等級4を取得	4.2/5.0	4.2
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避	LGS+ボードなど解体時に分別しやすい工法としている。	2.6/4.7	2.8
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.1
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	住宅性能表示制度 構造躯体劣化等級3を満たす ビニルクロス貼耐用年数20年 給水:SUS(G)、汚水排水:VP(B)、雑排水:VP(B)、Eは不使用	0.3/0.5	3.5
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	LGS+ボードなど解体時に分別しやすい工法としている。	2.2/4.0	2.7
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	適切な駐輪・駐車場の確保	0.3/0.4	3.9
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	3.1
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.9/2.3	2.0
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用		4.2/5.0	4.2
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.1**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	住宅性能表示制度 構造躯体劣化等級3を満たす	0.1/0.1	5.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.7/1.2	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	住宅性能表示制度 省エネ等級4を取得	4.2/5.0	4.2

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

CASBEE-川崎2017年版 ブラッド向ヶ丘遊園						欄に数値またはコメントを記入				
スコアシート		実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
	G	W	R	H						
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温										
2 外皮性能										
3 ゾーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率										
2 方位別開口										
3 昼光利用設備										
3.2 グレア対策										
1 昼光制御										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視										
2 喫煙の制御										

Q2 サービス性能					—	0.30	-	-	3.2
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ									
1	広さ・収納性				3.0	0.40	5.0	0.60	
2	高度情報通信設備対応			各住戸にGビットクラスのブロードバンドが利用可能な環境が整備されている。	3.0	-	5.0	1.00	
3	バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性									
1	広さ感・景観				3.0	0.30	2.0	0.40	
2	リフレッシュスペース				3.0	-	3.0	0.50	
3	内装計画				3.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理									
1	維持管理に配慮した設計			維持管理に適した材料を使用している	3.0	0.30	-	-	
2	維持管理用機能の確保			必要な維持管理機能を確保している	3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性									
2.1 耐震・免震・制震・制振									
1	耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.50	-	-	
2	免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数									
1	躯体材料の耐用年数	R		住宅性能表示制度 構造躯体劣化等級3を満たす	3.5	0.30	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R			2.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R		ビニルクロス貼耐用年数20年	4.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R			3.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R		給水:SUS(C)、汚水排水:VP(B)、雑排水:VP(B)、Eは不使用	5.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	R			2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性									
1	空調・換気設備				2.2	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-	
3	電気設備				1.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性									
3.1 空間のゆとり									
1	階高のゆとり			階高2.97mを確保	-	-	3.2	0.50	
2	空間の形状・自由さ				3.0	-	4.0	0.60	
3.2 荷重のゆとり									
3.3 設備の更新性									
1	空調配管の更新性				3.0	-	2.0	0.40	
2	給排水管の更新性				3.0	-	3.0	0.50	
3	電気配線の更新性				3.0	1.00	-	-	
4	通信配線の更新性				3.0	0.20	-	-	
5	設備機器の更新性				3.0	0.10	-	-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.10	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)									
1 生物環境の保全と創出				G	W	H			
2 まちなみ・景観への配慮				G			景観に配慮した設計を形成		
3 地域性・アメニティへの配慮									
3.1 地域性への配慮、快適性の向上									
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W	H			

LR 建築物の環境負荷低減性									3.5	
LR1 エネルギー									4.2	
1 建物外皮の熱負荷抑制				W		H	住宅性能表示制度 省エネ等級4を取得	4.0	0.20	4.0
2 自然エネルギー利用				W		H		3.0	0.10	3.0
3 設備システムの高効率化				W		H	[BEI][BEIm] = 0.70	5.0	0.50	5.0
4 効率的運用								3.0	0.20	3.0
集合住宅以外の評価										
4.1 モニタリング				W		H		3.0	-	-
4.2 運用管理体制				W		H		3.0	-	-
集合住宅の評価								3.0	1.00	-
4.1 モニタリング				W		H		3.0	0.50	-
4.2 運用管理体制				W		H		3.0	0.50	-
LR2 資源・マテリアル										2.7
1 水資源保護				W		R		2.2	0.20	2.2
1.1 節水								1.0	0.40	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用								3.0	0.60	-
1 雨水利用システム導入の有無								3.0	1.00	-
2 雑排水等利用システム導入の有無								3.0	-	-
2 非再生性資源の使用量削減								2.9	0.60	2.9
2.1 材料使用量の削減				W		R		2.0	0.10	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用				W		R		3.0	0.20	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				W		R	-	3.0	0.20	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				W		R	-	1.0	0.20	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				W		R		3.0	0.10	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				W		R	LGS+ボードなど解体時に分別しやすい工法としている。	5.0	0.20	-
3 汚染物質含有材料の使用回避								3.0	0.20	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用								3.0	0.30	-
3.2 フロン・ハロンの回避								3.0	0.70	-
1 消火剤				W				-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)				W				3.0	0.50	-
3 冷媒				W				3.0	0.50	-
LR3 数地外環境										3.4
1 地球温暖化への配慮				W			ライフサイクルCO2排出率が一定値以下	4.1	0.33	4.1
2 地域環境への配慮								3.1	0.33	3.1
2.1 大気汚染防止								3.0	0.25	-
2.2 温熱環境悪化の改善				G	W	H		3.0	0.50	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制								3.5	0.25	-
1 雨水排水負荷低減						R		3.0	0.25	-
2 汚水処理負荷抑制						R		3.0	0.25	-
3 交通負荷抑制						R	適切な駐輪・駐車場の確保	5.0	0.25	-
4 廃棄物処理負荷抑制						R		3.0	0.25	-
3 周辺環境への配慮								3.0	0.33	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止								3.0	0.40	-
1 騒音								3.0	1.00	-
2 振動								-	-	-
3 悪臭								-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制								3.0	0.40	-
1 風害の抑制								3.0	0.70	-
2 砂塵の抑制								3.0	-	-
3 日照障害の抑制								3.0	0.30	-
3.3 光害の抑制								3.0	0.20	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策								3.0	0.70	-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策								3.0	0.30	-

21044

プラウド向ヶ丘遊園

このマンションは分譲住宅環境性能表示の届出を行っています。

建築主は分譲共同住宅環境性能表示を販売広告に掲載した日から15日以内に届け出る
ことになっており、これにより公表しています。



この表示は川崎市の定めた基準に従って、建築主が自らの計画を評価した内容に基づいています。